

「【皮下注】ペルツズマブ+トラスツズマブ+Cape 療法」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している切除不能・再発乳癌に対して行われる治療法です。この治療法ではカペシタビン(Cape)という内服薬と、ペルツズマブ、トラスツズマブという注射薬の3種類の抗がん剤を使用します。

1. 投与方法

1) 注射薬

薬剤	効能または使用目的	投与時間
ペルツズマブ+トラスツズマブ ※	抗がん剤	皮下注射

※ ペルツズマブとトラスツズマブを配合した薬剤です。

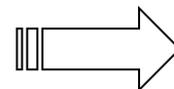
2) 内服薬

薬剤	効能または使用目的	用法
カペシタビン	抗がん剤	朝夕食後内服

2. スケジュール

ペルツズマブ+トラスツズマブ+Cape 療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。内服薬のカペシタビンは初日の夕食後からスタートし、15日目の朝食後まで内服します。その後の7日間は休薬期間になります。注射薬のペルツズマブ、トラスツズマブは初日のみに点滴を行い、残りの20日間は休薬期間になります。「休薬期間」とは、体調の回復を待つ時期であり、その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		
	1日目	2日目~14日目	15日目~21日目
トラスツズマブ ペルツズマブ	○		
カペシタビン		○	
休薬日			○



3. 特徴

●ペルツズマブ

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーツー) 受容体においてその働きを抑制し、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●トラスツズマブ

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーツー) 受容体においてその働きを抑制し、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



●カペシタビン

作用:がん細胞の DNA 合成を抑制すると共に、たんぱく質の合成も阻害することで抗がん作用を示します。

注意事項:「S-1」という抗がん剤と併用すると副作用が重篤化してしまうため併用禁忌となっています。

ワルファリンカリウム(抗凝固薬)、フェニトイン(抗けいれん薬)を服用している場合は申し出てください。

飲み忘れに注意して服用期間は厳守してください。

※飲み忘れや体調不良で飲めなかったなどで余りが出ても15日目朝以降に飲まないでください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

手足症候群 (Hand-Foot Syndrome)

好発時期:カペシタビンは50%以上の患者さんに症状が出現すると報告されており、その半数で日常生活に影響がでると考えられています。症状としては手のひらや足の底に、**しびれ、ヒリヒリ感、チクチク感、ほてり、赤くはれる、皮膚がガサガサする、爪が変形する、水疱ができる**などが治療開始後3コース目までに出現することが多いとされています。

対策:異常を感じたら、その場所に強い刺激を与えないようにしてください。

長時間の歩行や立ち仕事などは避けて足底に負担がかからないようにしてください。

靴は足に合った負担の少ないものを選んでください。

保湿クリームをお使いになると症状が軽減されることがあります。

熱いお風呂やシャワーは避けてください。

炊事、洗濯などは手袋を着用するとよいでしょう。

異常を感じたら早めにご相談ください。

脱毛

好発時期:2~3週間過ぎた頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2~3ヶ月で回復し始めます。

対策:症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



下痢

好発時期:当日~数週間の間に起こることがあります。

対策:**水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。**

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7~14日目くらいに減少のピークを迎え、21~28日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合は速やかに抗生剤の内服を開始し、3日間飲みきるようにしてください(途中で解熱しても服用を中止せず飲みきってください)。それでも解熱しない場合はご連絡ください。

※ただし、抗生剤によるアレルギーと思われる症状(発疹、かゆみ、動悸、発汗、息苦しさなど)が現れた場合は服用を中止しご連絡ください。



注射時反応 (Infusion reaction)

好発時期: ペルツズマブやトラスツズマブの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

主な症状は発熱、悪寒(さむけ)などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

対策: 解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

食欲不振

好発時期: 治療開始から数日~1週間程度で一時的に低下してくることがあります。

対策: **食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。**

症状が長引くときはご相談ください。

爪への影響

好発時期: 治療開始後、数週間から数ヶ月の間に爪が変色したり、剥がれやすくなったりすることがあります。

対策: 一時的な場合が多く、注射が終了すれば次第に回復してきます。

爪は適度に切りそろえ清潔に保ちましょう。

痛みを伴ったり、出血や膿(うみ)が出るような場合はご相談ください。



吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、
症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
考えすぎるとそれだけで症状が出てくる場合があります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接傷害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によって起こる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触るとザラザラするなど)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。**できやすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期: 抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外でも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4.5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2～3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎ができてしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。
水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。
必要に応じてお薬を処方しますので口内炎ができてしまったらご相談ください。
水疱や白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ、息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみなどの症状が出てきます。重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

好発時期: 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策: 定期的に心臓の機能検査を行い評価します。

状態によっては休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。



間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低い(0.6%程度)ですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。

上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: **初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。**



アレルギー

好発時期: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでるなどです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表: TEL 028-626-5500